

チャーリー・ブルツ選手、第5戦は22番手でチェッカー 予選と決勝、それぞれに課題

TEAM GOH（チームゴウ、代表：池田和広、監督：芳賀美里）の53号車をドライブするチャーリー・ブルツ選手は、5月24日に鈴鹿サーキットで開催された全日本スーパーフォーミュラ選手権第5戦において、20番手からスタートし、22番手でフィニッシュしました。



Rd.	サーキット	周回数	気温	路温	天気	予選	決勝
5	鈴鹿サーキット	31	25℃	41℃	曇/晴	P20	P22

※天気は決勝スタート時

第5戦の予選は、事前予報では曇りとされていたものの、実際には強い陽射しに見舞われ、路面温度は想定を大きく上回るコンディションとなりました。チームは当初、アウトラップ後にウォームラップを2周行い、その後アタックラップへ入るプランを準備していましたが、タイヤのオーバーヒートを懸念し、ブルツ選手が出走するBグループの直前に、ウォームラップ1周へとアプローチを変更。しかし、アタックラップ開始時点でもタイヤは十分な作動温度域に達しておらず、セクター1からセクター3までグリップ不足に苦しむこととなりました。その結果、Q1突破はならず、予選は20番手となりました。

気温 25℃、路面温度 41℃というコンディションで迎えた午後の決勝では、スタート直後に 2 ポジションを落としたものの、すぐにポジションを取り戻し、その後も手応えのあるペースで周回を重ねました。前日と同様に 8 周目でピットウィンドウがオープンしましたが、想定よりも早めにピットインする車両が少なかったことから、TEAM GOH はミニマム周回でのピットインを選択。アンダーカットを狙うとともに、ニュータイヤで比較的クリーンエアの中を走行する戦略を採りました。

その後も安定したペースで周回を続けていましたが、16 番手を走行していたレース中盤以降、車両フロアに違和感が発生。ブルツ選手によれば、残り 10 周前後の時点からリアのダウンフォースが抜けている感覚があったといい、26 周目の 4 コーナーでは、アクセルを戻した瞬間に突然リアが流れ、単独スピンを喫しました。車両には大きなダメージはなくレースへ復帰したものの、その後はペースが 1 周あたり 2~3 秒ほど低下。最終的に 22 位でチェッカーを受ける結果となりました。

◆監督 芳賀美里 のコメント

「第 5 戦は Q1 A 組での出走となりましたが、路面温度が想定以上に高く、タイヤのオーバーヒート対策として直前にウォームアップやアプローチを変更する難しいコンディションとなりました。その中で Q1 突破を狙いましたが、十分にタイヤを仕上げることができず、Q2 進出はならず。後方グリッドからのスタートとなりました」

「決勝ではスタート直後にポジションを落としたものの、すぐに取り返し、その後も少しずつ追いつける展開となりました。チャーリー選手には、もう少しアグレッシブに攻めてほしいなという印象もありましたが、厳しいコンディションの中で粘り強く戦ってくれました。終盤、マシントラブルによりスピンが発生。大きく順位を落とす結果となり、最終的にはチームとして目指していた結果には届きませんでした。」

「今後については、まずは Q1 を突破するという大きな壁を越え、前方からスタートできるレース展開へ、チームとして徐々に持っていきたいと思っています。今回見えた課題をしっかりと改善し、次戦へつなげていきたいと思っています」

◆ドライバー チャーリー・ブルツ選手のコメント

「予選では、昨日より気温が高かったことを踏まえてアプローチを変えましたが、今回もアタックラップの時点でタイヤを十分に上げることができず、グリップ不足に苦しみました。ただ、ラップ終盤のセクターでは手応えもあり、ポテンシャルは感じています」

「決勝のスタートは昨日より改善したものの、まだ課題が残り、ポジションを落としてしまいました。それでも序盤からオーバーテイクを決めることができ、レースペースの良さは示せたと思います。昨日と同様にミニマムウィンドウでアンダーカットを狙ってピットインし、その後はクリーンエアの中で良いペースで走ることができました。終盤はフロアダメージの影響でスピンを喫し、結果にはつながりませんでした。内容としてはポジティブな面も多かったです」

「今回の鈴鹿では初ポイントも獲得できましたし、今後は特に予選でタイヤをうまく機能させることが重要だと感じています。そこを改善できれば、レースペースを生かしてポイント争いができると考えていま

す。引き続きの応援をどうぞよろしくお願いいたします」

◆チーフエンジニア 柏木良仁 のコメント

「予選は、天気予報が曇りだったにもかかわらず陽射しが予想以上に強く、路温が高くなったため、直前にアウト、ウォーム、ウォーム、プッシュから、アウト、ウォーム、プッシュで行くことに変更して臨みましたが、アタックラップの前半ではまだタイヤを十分に温めきれておらず、本来のパフォーマンスを引き出せませんでした」

「決勝のスタートはこれまでより改善が見られ、ピットウィンドウが開いた時に前方で入った車が少なかったこともあり、8周目にピットインしてクリーンエアを確保する戦略を選択しました。ペース自体も悪くなく、内容としては前向きな部分があったと思いますが、終盤にはフロアダメージの影響でクルマのバランスを崩し、結果につなげることができませんでした。今後は、まず予選でタイヤをしっかり機能させること、そしてクルマの安定性をさらに高めることが課題だと考えています」

以上

